

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校)

<p>実践年度・タイトル</p>		<p>平成28年度</p> <p>Skypeやレッツチャットを使ったコミュニケーション</p>
<p>授業について</p>	<p>教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)</p>	<p><input type="checkbox"/>国語 <input type="checkbox"/>社会 <input type="checkbox"/>算数/数学 <input type="checkbox"/>理科 <input type="checkbox"/>生活 <input type="checkbox"/>音楽 <input type="checkbox"/>図画工作/美術 <input type="checkbox"/>家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/>体育/保健体育 <input type="checkbox"/>道徳 <input type="checkbox"/>外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/>総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/>特別活動 <input checked="" type="checkbox"/>自立活動 <input type="checkbox"/>各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/>その他の教科 <input type="checkbox"/>その他()</p>
	<p>単元・題材名</p>	<p>お話しよう</p>
	<p>授業の目標</p>	<p>・意思伝達装置や保有する手段を使って、自分の好きなものややりたいことを伝えることができる。 ・活動に集中して取り組むことができる。</p>
	<p>観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)</p>	<p>■「知識・理解」 <input type="checkbox"/>「技能」 ■「思考・判断・表現」 ■「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/>その他()</p>
<p>学習集団と子どもの実態</p>	<p>学校・学部・学年・人数</p>	<p><input type="checkbox"/>通常の学級 <input type="checkbox"/>通級による指導 <input type="checkbox"/>特別支援学級 ■特別支援学校 <input type="checkbox"/>就学前 ■小学生 <input type="checkbox"/>中学生 <input type="checkbox"/>高校生以降 <input type="checkbox"/>特定されない 第1学年 1人</p>
	<p>対象の障害</p>	<p><input type="checkbox"/>視覚障害 <input type="checkbox"/>聴覚障害 <input type="checkbox"/>知的障害 ■肢体不自由 <input type="checkbox"/>病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/>言語障害 <input type="checkbox"/>自閉症 <input type="checkbox"/>情緒障害 <input type="checkbox"/>LD(学習障害) <input type="checkbox"/>ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/>その他</p>
	<p>子どもの課題 (特性・ニーズ)</p>	<p>■見る <input type="checkbox"/>聞く <input type="checkbox"/>話す <input type="checkbox"/>読む <input type="checkbox"/>書く <input type="checkbox"/>計算する <input type="checkbox"/>推論する <input type="checkbox"/>運動と姿勢 <input type="checkbox"/>日常生活活動 <input type="checkbox"/>不注意 <input type="checkbox"/>多動性・衝動性 ■社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/>覚える・理解する <input type="checkbox"/>その他</p> <p>・物事に集中して取り組む時間が短い。 ・言葉を使つてのコミュニケーションが少ない。</p>
<p>ICT活用について</p>	<p>使用した支援機器・教材の名称と画像 (使用した支援機器・教材の名称を記載し画像を挿入。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)</p>	<p> レッツチャット(意思伝達装置) Skype</p>
	<p>活用のねらい</p>	<p>Aコミュニケーション支援(■A1意思伝達支援 ■A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(■B1情報入手支援 <input type="checkbox"/>B2機器操作支援 <input type="checkbox"/>B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/>C1教科学習支援 ■C2認知発達支援 <input type="checkbox"/>C3社会生活支援)</p> <p>・レッツチャット(意思伝達装置)を用いて、自分の思いを言葉で相手に伝える。 ・Skypeを用いて、画面に映っているものを集中して見たり、興味をもったりする。</p>
<p>授業に授お業ける開支援</p>	<p>授業展開と画像 (授業の様子、ICT活用場面の画像を挿入。)</p>	<p>①指導者の問いに本児がレッツチャットを使って答える。 様子1) T:「〇ちゃんの嫌いなものは何ですか？」 S:「くも」 様子2) T:「ビーズアクセサリーは何個つくりたいですか？」 S:「1こつくる」 様子3) T:「〇ちゃんの好きなかたちは？」 S:「はーとすき」…その後、鼻をヒクヒク動かし始める。 T:「どうして鼻を動かしているの？」 S:「(ハートを反対にすると)はな(鼻)ににてる」</p> <p>②生活単元学習や儀式的行事の際に学校と家をSkypeでつなぎ、一緒に活動をす ・運動会の全校ダンス練習 ・1学期の終業式 ・学芸会の演目練習 ・学芸会の頑張ったね会 等</p> <p></p>
<p>効果・評価</p>	<p>子どもの様子や変容および授業の評価</p>	<p>・レッツチャットを用いることで、自分の意思を言葉を使って伝えようという意欲が出てきた。その日の気分や体調にもよるが、指導者と簡単な会話が少しずつできるようになってきた。 ・Skypeを用いることで、集中して画面を見るようになった。画面越しに映っている友達の様子や学校での授業の様子に興味をもつようになった。</p>